

企画書

タイトル候補

審判～Judge～(仮)

企画内容

現存するほとんどのスポーツに欠かせないもの、それが「審判」です。スポーツには「ルール」が存在し、そのルールを司る「審判」は、競技において絶対的な存在。彼らの下す判定ひとつで、勝敗は大きく左右され、時には競技者の人生すら変えてしまいます。

だからこそ、「審判」には高度な正確性、威厳が求められています。これは、どんな競技でも同じこと。「審判の言う事は絶対」という言葉があるように、極端な話、審判が「黒」だといえば、それが「白」でも「黒」になる…それだけの権限を「審判」は有しています。

どんなスポーツでも、恐らく選手以上にゲームへの集中力が求められ、選手以上にその競技に精通していなければいけない「審判」。競技者のレベルが上がれば当然、審判の技量もさらに上のレベルを求められます。そこで、今回企画するのが、日本でも人気のスポーツの「審判」にスポットを当て、それぞれにインタビューを行い、各競技の特性や魅力、審判だからこそ感じるができる感覚や、審判としての技量(必要な能力)など、「スポーツの現場を誰よりも間近で見ている」からこそ知り得るエピソードや情報を掲載するインタビュー本です。

体裁 A5版 192P (オール1色 or2色)

制作 LAP

構成案

各競技のトップレベルの審判にインタビューし、審判ならではの話を掲載する。

- ・ 審判に必要な条件(どのような事を心掛けているのか。審判に必要な能力とは)
- ・ 神業判定(自身でも、よく見ていた!と思うような事)
- ・ 審判としての心得
- ・ 審判が思う名選手(ジャッジしていて凄い!と思った選手)
- ・ 審判が選ぶ、名勝負、名場面
- ・ 審判ウラ話(選手との会話や審判だからこそ知る選手の素顔)
- ・ なぜ審判になったのか?
- ・ 審判のやりがい

など

紹介競技候補

●野球

- ・ 審判に必要な能力とは？ 審判に求められるもの
- ・ 抗議の際の対応方法
- ・ 外国人選手の扱い方
- ・ 誤審について
- ・ ビデオ判定について
- ・ 印象に残るシーン

など

●サッカー(西村さんなど、W杯ジャッジ経験者がベスト)

- ・ イエロー、レッドカードの差
- ・ 外国籍選手とのコミュニケーション(特に英語を話せない選手)
- ・ 誤審について(第4審判は必要か?)
- ・ 普段のトレーニング(サッカーの主審は1試合10キロ以上走る)
- ・ W杯のエピソード

など

●ボクシング

- ・ TKOのタイミング(どこで線をひいているのか)
- ・ 試合中、選手のどこを見ているのか(拳？顔、目？全体?)
- ・ レフェリーとジャッジの印象は違う？
- ・ レフェリーから見て「凄い」と思った選手
- ・ 4回戦～世界戦、レフェリングの差は？

など

●相撲(木村庄之助、式守伊之助など)

- ・ 行事として気を付けている事
- ・ 一瞬の判断
- ・ 恐怖体験(力士に潰された…とか)
- ・ 名勝負、名力士
- ・ 相撲界、力士に求める事

など